

# ルーダスⅡコヴェントリー・サイクル劇(XX)

橋 本 侃

## 第二十八番演目 「裏切り」

(1)

イエス さて、愛しい友であり兄弟でもあるあなたたち一人一人に言うておく――  
わたしの言葉を忘れないようにしなさい。  
行かねばならない時が来た、

預言を実現させるためだ。

預言では、わたしが死ぬとされている、

悪魔の力をあなたたちから追い出すためだ。

その死をこばむつもりはない、

わたしの花嫁である人間の魂を贖うのだから。

## (2)

慈しみの油が明らかに与えられる、  
この旅路をわたしがたどることによつて。  
わたしは父から遣わされているのだ、  
神と人との間を取り持つために。

## (3)

わたしの兄弟なので人間を見捨てることはできないし、  
素振りの一つにも不親切なところを見せるわけにはいかない。  
わたしの体は人間のために味わう苦しみによつて打ち震え、  
人の子は人間を愛するために死ぬことになるう。

左百五十八頁(905)

「ここで、イエスと弟子たちはオリブ山へ向かう。庭園のような場所に近づく少し前に、弟子たちにその場で待つように命じ、祈りに向かう前に、ペテロに言う。」

## (4)

ペテロよ、仲間と一緒に、ここで待っていなさい。  
わたしが戻ってくるまで、不寝番をしているように。  
あなたたちのそば近くで祈らなくてはならない。  
わたしの体は恐れと苦しみのために激しく震えている。

ペテロ 主よ、それはわたしに無理強いさせるような要求ですが――

お言葉ですので、じつとこの場所で待機していきましょう。

戻っていらっしゃるまで、ここを動きません、

主のご意思を尊重して。

〔ここで、イエスはオリブ山にゆき、両膝をつき、天の父に向かって祈る。〕

(5)

イエス おお、父よ、父よ、わたしのためになるのなら、

この大きな受難をわたしから取り除けてください――

わたしが受ける定めとなっていると分かっています。

父よ、もしも、こうすることで人間の魂が救われるのなら、

また、これが滅ぶはずの人間の魂を救うために

わたしがどうしてもなくてはならないものなら、

どの程度にも準備ができています、

御旨を実現させるための。

〔ここで、イエスは弟子の所へ戻る。すると、皆が眠っているのが判り、ペテロに声を掛ける。〕

(6)

ペテロよ、ペテロ——ぐっすり眠っている！

仲間を起こし、もう眠らないようにしなさい。

わたしが死ぬというのに、お前たちはその不安におびえてもいない——  
お前たちが眠っているというのに、わたしの方は苦しんでいる！

〔ここで、キリストは二度目にオリーブ山へ行き、ひざまずく。〕

## (7)

天におられる父よ、お願いです、

あなたの偉大な慈しみによってわたしの苦しみを取り除き、

この死から逃れさせてください、

わたしは罪を一度も犯したことがないのです！

わたしの顔から、水と血が

受けるはずの苦しみのせいで、滴り落ちています。

恐ろしい状況に置かれ、わたしの肉体は打ち震えています、

まるで関節という関節が離れ離れになってしまうかのように。

〔ここで、イエスは弟子たちの所にもう一度戻る。またも皆が眠っているのを見つけるが、眠ったままにさせておき、祈る。〕

## (8)

父よ、ここに来たのはこれで三度目です。

わたしの使命を十二分に果たすために、

父よ、この苦しみからわたしを解き放ってください。

もつとも、とてつもなく大きな恐れがあるので、その苦しみは和らげられています。

父よ、あなたの息子に心を留めてください。

ご存知のとおり、わたしは正しいことしかしてきていません。

この苦しみに耐えるのは、わたし個人のためではなく、

水と血の両方を滴り流すのは、人間のためです。

〔ここで、天使が天から降りてきて、聖餐式のパンの入った杯をイエスにもたります。〕

(9)

天使 めでたし、神であり人である方！

父上がこの物をあなたに贈られ、

命じられました——恐れることなく、

御旨を実現させるように、と。

天上の会議が意図したとおり、

今こそ人間の魂が贖われるはずです。

あなたは天上から地上へ遣わされました。

左百五十九 (945)

それはあなたにふさわしいことなのです。

(10)

この杯の葡萄酒はあなたの血、このパンはあなたの体、人間の罪のために必ずいつも捧げられるものとなりましょう。

全能である天の父に向かって、

あなたの弟子たちと聖職者のすべてが、あなたに代わって、捧げ物とするでしょう。

〔ここで、天使はまたも突然に天に昇る。〕

(11)

イエス 父よ、あなたの御旨を実現させます。

この件に関して何も異議を唱えません、

きつと預言を実現させましょう――

人間の罪のせいで死をこうむるのです。

〔ここで、再びキリストは弟子たちの所へ行く。弟子たちは未だに眠っている。〕

(12)

ペテロよ、起きなさい、あなたは長く寝すぎです――

眠るとなると、ぐずぐずしないのですね！

ユダは権力者たちとしっかり手を結んで、

わたしを裏切る役割を演じるはずです。

さあ、みんな、お願いだから起きていなさい。

わたしのために目を開けていてください。

これから大通りに出て行って、

わたしを捕らえる者たちが来るのを迎えよう。

(13)

ペテロよ、わたしが弟子たちの皆から見捨てられた、とあなたが言う時には、 百六十

また、友たちからずっと離れて、わたしが独りで立つ時には、

970

できるかぎり暖かく迎えてあげるのですよ、

兄弟の一人一人を。

〔ここで、イエスが弟子たちとしかるべき場所に出て行くと、そこへ、白い鎧と歩兵鎧を身に付けた兵士たちと、他の扮装の者たちがやってくる。短剣と段平、その他の見慣れない武器や、火を点けた提灯、行灯、トーチなどを手にしている。ユダが先頭に立って皆を引き連れてイエスの所へ行く。〕

(14)

イエス みなさん、随分と急いでいらつしやいますね、

逃げるつもりのない者を探すというのに！

965

わたしはあなたたちにおびえてなどいません。

みなさん、誰を探しているのか教えてください。

(15)

リオン この場所です誰を探しているのか、今直ぐ教えてやる。

国賊は死をこうむるのがふさわしい。

奴がお前たちに紛れていることは承知している――

そいつの名はナザレのイエスだ。

イエス それなら、みなさん、わたしはここにいて、逃げも隠れもしません。

できることなら、なんでもおやりなさい。

わたしがその男だ、と言っているのです。

ナザレのイエスとはわたしのことです。

〔キリストの言葉を聞いたとたんに、すべてのユダヤ人は地面に倒れる。そして、立つようにキリストが言うと、全員が立ち上がる。キリストが語る。〕

(16)

みなさん、起き上がってください――探している者と行き違ふところでした！

ここまでいらしたのは、このわたしを探してのことでしょう？

このように、皆さん一人一人の目の前に立っていますので、



これでお見知り置きになれますね。

(17)

リユービン 我らはナザレのイエスを探しているが、

左百六十

ひよっとしたら、この場所で目にすることができらるだろう。

イエス 優しい声音であなたに向かって話したせいか――

あなた方が探しているのはこのわたしだ！

(18)

ユダ これはようこそ、イエス様、わたしの愛しい師匠、

多くの場所を探してみましたぞ。

ここであなたを探し当てられてとても嬉しい、

あなたがどこにいるのか、ちっとも見当がつかなかった！

995

「ここで、ユダはイエスに接吻する。すると直ぐに、すべてのユダヤ人が回りを取り囲み、イエスに手をかけ、気が狂ったように引きずり回す。そして、大きな叫び声を一斉に上げる。」

ペテロ よし、場合が場合だ、俺は剣を抜くぞ！

師よ、ぶった切ってやりましょう、ぜがひでも、そうしてやりたい！

「こう叫ぶと、ペテロはマルコスに一撃を加える。「俺の耳が、俺の耳が！」とマルコス

990

は大声で助けを呼ぶと、キリストが彼の耳を祝福する。すると耳は途端に元どおりに治ってしまう。」

イエス　しつかと剣を鞘に収めなさい――  
 剣で撃つ者は剣によって撃たれるものだ。

(19)

ああ、ユダよ、お前が図った裏切りはこれか！

この先、ひどく悔いるようなら、

産まれて来なければ良かった――

お前は肉体と魂を破滅させてしまったのだ。

(20)

ガマリエル　よいか、イエス、この告訴は取り下げられないぞ――

国賊であることと異端の罪がお前にははつきりしているからだ。

こうなったら、法廷でどう言い逃れをしたらいいか、じっくり考えておけ。

首に縄が巻かれている間は、

この広い世界の王だと自称しておれ。

この辺で、お前の偉大な力とやらを見せてくれ。

自分で自分を無事に救い出し、

こんな危険な目から自分を引きずり出したらどうだ？

(21)

リオン この国賊を引つ立てろ、命乞いなどさせるな――

お前を裁かれるカヤパ様の所へ連れて行く。

多くの場所を探しに探した。

お前のする仕業に十二分の注意を払ってきたのだ。

(22)

リュウビン さあ、イエス、来るのだ、俺の後についてまいれ。

お前を捕まえてとても嬉しい。

お前は木に吊るされるだろう――

百万の黄金など溜めさせてやらないからな。

(23)

リオン 急いで俺に奴の体に手を掛けさせろ――

奴を死神のところへ俺が連れて行く。

お前の魔法と魔術を見せてみる、

これまでお前の助けになったすべてがすべて、今となつては間違つて働き出すのだ。

(24)

イエス 友よ、これはまともな扱いでないから氣をつけてください。

手荒くわたしのここを縛ってから、

足元を狙って、わたしに襲いかかるとは、

まるでわたしが盗賊の仲間であるかのようなだ。

いままで何回となく、あなたたちの前に姿を現していたのに！

寺院の中でもわたしをずっと見ていた――

わたしは神の掟を教えていた、

魂の言葉をよく聞く者たちに向かって。

(25)

なぜ、その時、わたしに向かって論駁しなかったのか？

無知な人びとと身分の低い人びとに説教しているのを聞いていたのに！

ところが今はどうだ、狂人のようにわめきちらし、

自分でもわけのわからないことをしている。

(26)

ガマリエル よいか、皆のもの、お前たちに命令しておく、今夜は一言も発せず、

奴をカヤパス様の所へ急いで引き立ててゆけ。

大いに侮辱しながら奴を引き立ててゆけ、

奴の言うことなどには注意を払わぬようにせよ。

〔ここで、ユダヤ人たちは大きな叫び声を挙げ、物音を立てながらイエスをその場所から連れ出す。ある者はキリストを前に突き押し、ある者は後ろへ引き戻す。そのようにしながら、武器を頭上高く挙げ、松明を掲げ、イエスを引き立てる。そうするうちに、場面は変わり、マグダラのマリアが聖母のもとへ駆け寄り、我らが主の逮捕を告げる。〕

1040

「聖母マリアの嘆き」

(1)

マグダラのマリア おお、すべての女のうちでもっと従順であられる無原罪の母よ、  
 おお、常に聖なる瞑想にふけておられる信仰深い方！  
 あなた様をお探していたのは  
 すでに何かの報せを受けているかどうか知りたかったのです――

(2)

あなたの優しい息子であり、わたしが崇敬する主イエス様についてのものです。  
 イエス様はあなたの日々の安逸、あなたの霊的な慰めであられたのに！  
 マリア マグダラのマリア、知っているのなら聞かせておくれ。

1045

あの子のことを聞きたいのも、すべてわたしの愛情からなのです。

(3)

マグダラのマリヤ あなた様にぜひお伝えしたいが、途中で泣いてしまうかもしれません。  
マリヤ様、御子はユダヤ人たちに売られてしまったのです。

網で縛り上げられ、捕らえられてしまったのです。

侮辱されながら鞭打たれ、しつかと逮捕されてしまったのです。

乙女マリヤ ああ、ああ、ああ、わたしの心臓のなんと冷たいこと！

こんなに石のように固くなってしまった心臓で持ちこたえられるだろうか！

その痛ましい報せをいつ聞かされたのですか？

ああ、神に願います、この心臓が破れてくれたら、と！

(4)

ああ、イエスよ、イエスよ、イエスよ、イエス！

そのような苦しい試練と逆境を経験しなくてはならないのですか！

その人たちはどんな気持ちから、お前を追い詰めるようなことまでできたのでしょうか、

どんな程度の罪も犯していないお前を？

お前の頭には正しいこと以外の考えは浮かばなかったというのに！

なんのために、こんな大きな苦しみに耐えなくてはならないの？

これはもう、わたしが犯した罪のせいだ、と考えるのが順当です。もしそうなら、きつとこの心臓は二つに裂けてしまいうに違いない。

(5)

この苦しみに耐えられるかしら――

悲しみの剣はわたしの心をこのように突き通してしまった！

ああ、わたしに何ができるの？ ああ、わたしに何が言えるの？

これらの刺し刃がこの心臓を千々に引き裂く。

(6)

おお、天の父よ、あなたのお約束のすべてはどこへ行ってしまったのですか、

わたしを母にされた時に約束されたことは？

あなたの祝福された息子を二匹の家畜の間で生みました。

今はもう、あの子から、生まれたばかりの時に見たあの顔色がすっかりあせてしまった。

(7)

ああ、善き父よ、愛しい御子をこうも苦しませておくのはどんなおつもりなのです？

あなたの掟に背くことなど一度もなく、いつも従順でした。

それに、創造物の一つ一つにとっても情け深く、とても優しく、親切でもありました。

それがいま、これまでの愛の代償として、恥ずかしめを受けているのです。

## (8)

慈しみ深い父よ、あなたのおつもりでは、すべてこのようになる定めなのですか？  
人間はこのような方法でしか救われないのですか？

そうであるのなら、主である父よ、わたしの苦しみが慰められますように、  
わたしの子によって人間が救われ、良い結果がもたらされた時には。

## (9)

さあ、愛しい我が子よ、これまでいつも慈しみ深かったお前です、  
人間を愛している以上、あなた自身にも慈しみを惜しまないでください。

今が今、すべての人間を憐れむお前よ、  
気が重いあなたの母のことも考えてください。

〔残りの写本百六十二頁と左百六十二頁は空白。〕

## 「律法学者の口上」

## (1)

学者一 おお、すべての靈的財宝の極地であられる方、

おお、偉大なる美德が無限である方、



おお、純粹の明るさを持つ靈的光明である方、  
これなる観客に向けてあなたの光線を放射してください！

(2)

学者二 おお、もつとも高きもの、と永遠に呼ばれる方、  
あなたの受難によつてもたらされる救いで、ここに集まった人たちを癒してください！  
そして、われらは聖靈であるあなたに祈ります、  
あなたの愛の炎でもつて、すべての中傷を終わりにさせてくださいますように！

(3)

学者一 学問のない人々に向かつて、わたしは教師としての立場から、  
聖靈の発出についての情報を与える。  
そして、学問のある人々に向かつては、靈的な説教師としての立場から、  
わたしが読み聞かせることで、精神的な喜びを持たせる。

(4)

学者二 光り輝く聖職者の皆様、十二人の弟子を歓迎しましょう！  
最初に、あなた方の親王であり、同時に、あなた方の座長であるペテロ様！  
そして、一緒におられるあなたと腹違いの兄弟であるアンデレ様、  
なんの異議も称えず最初にキリストに従った方！

(5)

学者一 おお、ヤコブ様にヨハネ様、光明を与え続けられるお二人の方々、

太陽光線のように、常に燃えつづけておいでだ。

慈しみの鎖でもって、お二人は一つに結び合わされ、

あなた方の母上によって、エルサレムにおいでの子クリスト様に捧げられました。

20

(6)

学者二 ようこそ、ピリポ様、サマリア人を改宗させ、

左百六十三

女王カンダケの財宝庫管理者を改宗させた方。

エルサレムの近郊に小ヤコブと一緒におられ、

ケファルペテロ様の布告により最初の族長にされました。

(7)

学者一 ようこそ、使徒であり、また福音書記者であるマタイ様、

25

霊的な生活について人々に語られた。

あなたは饗宴の場にいたという良心の暗闇から解放され、

すべての肉欲の誘惑から逃れたバルトロマイ様とご一緒でした。

(8)

学者二 ようこそ、シモン様、「熱心党のシモン」というお名前でご挨拶します。

それに、ユダ様——お二人とも我らの主をよく愛しておられた。

それゆえ、あなた方は喜びと楽しみの両方を持たれていらっしゃる。

そこに戦いは一度としてなく、あるのは良い調和だけです。

(9)

学者一 ようこそ、パウロ様、信仰の偉大な律法学者、

そして、真の選挙によって選ばれた方。

ようこそ、トマス様、あなたについては聖書が語っています、

キリストの傷にあなたの魂の支えがありました。

(10)

学者二 ようこそ、洗礼者ヨハネ様、とても卓越された方、

自然の受胎によって産まれた者のうちで。

そして、聖書が証明するように、預言者のうちでもっとも高位におられる方、

めでたし、砂漠でいつも叫ばれておられた声よ！

〔百六十四頁と左百六十四頁は空白。〕

## 第二十九番演目 受難劇 II

〔出演者の入場後、ヘロデが舞台のしかるべき所に立つと、ピラト、アンナス、カヤパも

位置を占める。そこへ、律法学者の衣裳を纏った解説者が前に進み出る。」

百六十五

## 「ヘロデ王」

### (1)

**解説者** ご覧の皆様方、皆さんは必ず神に迎えられます！

神の恵み、神の愛と慈しみがいつも皆さんとありますように！

人間のために十字架上で死んだあの乙女の御子が、あなたがたを心に留め、

三位一体の唯一の神が敵からあなたがたを守ってくれますように！

### (2)

全能の神のありがたいお許しによって、

昨年、演じ終えた場面から次の場面へと進めたいと思います。

それゆえ、皆様の思し召しがたつぷり戴けるように願います！

これからご覧に入れる御受難の顛末を心に留めていただきとうございます！

### (3)

昨年、この場でご覧に入れたのは、我らの主が人間を愛されておられればこそ、

都エルサレムにゆかれ、従順に死に就かれたご様子と、

最後の晩餐を囲みながら、その御体を弟子たちに渡し、

人間のために、我らといつも必ず一緒におられると語られた場面でした。

(4)

その晩餐のさなかに、主は裏切られました——ユダが主を売ったのです。銀貨三十枚の値で、その夜に、ユダヤ人へ引き渡したのです。

ユダヤ人たちは剣と段平を携え、大胆な裏切り者と一緒にやって来て、夜中ごろに、弟子たちに混じっておられたイエスを捕まえたのです。

(5)

さて、場面を進めて、どのように主が連れてゆかれたのかをご覧にいます。アンナスとカヤパの前へ、そしてその後、ピラトの前に引き出されるのです。

さらに、人間のために御受難を従順に受けられる御様子をご覧に入れましょう。

皆様の魂が報われますように、これからの場面をとくにご覧ください！

20

〔ここで、ヘロデが登場する。〕

(1)

ヘロデ さあ、おしゃべりは止めにして、御身分にふさわしくお聞きなさい。左百六十五ご覧の方々には一言も声を発しないように命じる——

俺様という高貴な存在が目の前にいるというのに、そんなに大胆にふるまわぬことだ、

15

俺様の意向に反して、口を利くなどとは。

俺様がユダヤ人のヘロデだ、もつとも尊敬されている王だ。

俺は力を入れてマホメット様の掟の防備を固めている、

もつとも優れた恵みの主と崇敬しながら。

なぜなら、マホメット様の力によって、すべてのものの数が増えるからだ。

(2)

キリスト教徒の誰であれ、マホメット様への信仰を拒むほど大胆な奴は、

あるいは、マホメット様の掟に反する過ちを犯す者なら誰でも、

そいつを鎖で縛って絞首門上に高く吊るしてやる。

荒馬を使ってこいつら国賊たちの五体を引きちぎってやる。

キリスト教徒を何千と殺しても痛くも痒くもないわ――、

首を吊るされたり、火炙りにされたりしているのを目にするのは大いに楽しいことだ。

やつらが土牢へ追い込まれ、爬虫類にかじられ、

やつらの肉と骨がずたずたに引き裂かれてぶらぶらしてるのを見るのは楽しい！

(3)

洗礼者ヨハネはキリストと多くの者たちに洗礼を施してキリスト教徒とした。

それゆえ、俺様じきじきに奴を殺してやった。

あんたら一人一人に言っておくが、ヨハネを殺したのは他ならぬこの俺だ。

なぜなら、したい放題をさせていたら、われらの掟を破壊してしまったはずだ。

20

俺様にはキリスト教徒が大いに惑わしいものに見えるから、

こいつら国賊どものことを耳にすると心が痛む。

なぜなら、俺がマホメット様の掟を取りしきっているからだ。

比べる者としてない、かの主の掟を俺は守り続けるつもりだ。

なぜなら、かの主は大変に分別のある神だからだ。

百六十六 (25)

さて、ここにおいで。の諸公に命じる――

野良犬キリスト教徒がこの地に姿を現したら

大権を持つ俺様の前に、そいつら裏切り者たちを連れて来い。

そうしたら、直ぐに判決を下してやる。

(4)

兵士一 わが支配者である主、最高に優れた方、

30

正邪を裁く権限はすべてあなたにあります。

聞き分けのない野良犬キリスト教徒のすべてを

耐えられぬ苦しみをなめさせておやりなさい。

兵士二 閣下にあつては、これ以上に賞賛できるものはありえないでしょう、

われらの掟に背いたこれらの国賊を無き者にすること以上に。

大いに利用価値のあるわれらの法に逆らう者たちを、

掟に従って、罰則をせひとも執行してください。

(5)

ヘロデ王 それでは、俺を支配される救世主である栄光に輝くマホメット様にかけて、

真の騎士として、これらの約束の履行を誓う。

うっかりした間違えからであっても、マホメット様の掟の許容範囲を超える者は  
もつとも恥ずかしい死に様に遇わせてやる。 40

だが、ただ一つのことだけが俺には大きな喜びだ。

人の話によると、ナザレのイエスとかいう者がいるそうだ。

その男を一目でも見てみたい――

大口をたくさん叩いては、われらの掟をないがしろにしているからだ！

(6)

奴は神の御子であると自称し、

ユダヤ人の王であると言っている。

そして、奴はたくさん不思議な業を起こしている。

心から願っているのは奴をこの目で見ることだ。



諸公よ、この国に奴がやって来たら、

よいか、われらの裁治権をもって、よく搜索し、

直ぐに俺の所へ連れて来い。

そうしたら、じきじきに真実を裁いてやる。

(7)

兵士一 あした、搜索の旅を始めます、

しかるべく励んでイエスを探します。

奴が閣下の支配圏に立ち入りましたら、

閣下の面通しから逃れるようなまねなどさせません。

(8)

兵士二 わたしを支配しておられる方よ、これが採用していただきたいわたしの進言です。

賢く、しかも、力強い一人の男を

ガリラヤ中に探すのです。

もしイエスがあなた様の人民の間に入り込んだら、

奴がしでかした不始末を懲らしめてやりなさい――

奴の肉体はあなた様の裁判権の下にあるからです。

人々の間で取り沙汰されているように、

奴はガリラヤで産まれたのですから。

(9)

王 それならば、諸公、これらのことに注意を払え。

しばらくの間、わしは休みを取る。

そうするのは本能的な欲望からだ――

それが一番だ、と肉欲がわしに言うのだ。

(ここで、伝令が「お報せです、お報せです！」と叫びながら、走りこみ、舞台を回りながら、「ナザレのイエスが捕まった、ナザレのイエスが捕まった！」と触れまわり、高位高官たちに向かって言う。)

(10)

伝令 ご臨席の高位高官の皆様！ 高位聖職者の方々！

掟を守っておられるカヤパ様とアンナス様！

お報せをお持ちしました、御胸で受け止めてください――

ナザレのイエスが捕まりました！ これについては、お喜びのことでしょう！

(11)

イエスは皆様の御前に直ぐに引き出されましょう、

細心の注意を払って事実を申し上げます。

イエスが捕まった時に、わたしはその場にいましたので、とばかりを受けて、危うく一発殴られるところでした。

(12)

手提げランプを持ったマルコスがイエスを追い詰めました。

直ぐに剣の切っ先が当たって、片方の耳が削がれました。

イエスは弟子たちに命じました、刀をしまい、暴力を止めるように、と。それから、マルコスの耳を前と同じように無傷のままに付け直しました。

(13)

それこそ不思議な光景だと思われるかもしれませんが事実です。

我らがイエス近づくと、今度はイエスの方が我らの方へ近寄って来て、

「夜の夜中のこんな時刻に誰を探しているのか」と聞いたのです。

そこで我らは言いました、「ナザレのイエスだ、イエスにぜひ会いたい」と。

(14)

すると、イエスは言いました、「それはわたしのことだ、あなたたちの目の前にいる」と。

その言葉を聞くと同時に、誰もが皆、ひっくり返ってしまったのです。

なかには長々と地面に仰向けになったのがおりました――

男らしくしつかりと立っている者は一人もいませんでした。

(15)

キリストは子羊のように柔和に立っていました。

90

我らの方は、立ちなさいと命じられるまで、死人のようにじつと横たわったままでした。立ち上がってから、我らはイエスの体をしつかり掴まえました。が、わたしにはこのように改めてやる掴まえ方が気に食わぬやり方のように思えました。

(16)

それゆえ、こんどはあなた方で相談され、いい助言を受けられ、イエスのせいでうろたえることのないようにご注意ください。

左百六十七(95)

なぜなら、この機会にわたしの幸運をかけて誓って言います——  
奴が不思議な男であることがあなた方にも分かるでしょう、と。

「ここで、アンナスとカヤパの前にイエスが連れてこられると、誰かが言う。」

「アンナスとカヤパの御前での裁判」

ユダヤ人 ご覧ください、ご覧ください皆さん、これがあの男です——

あの男を捕まえるために、我らは派遣されたのです。

アンナス それでは、そのことをあなた方に感謝し、

それだけ余計に報酬を取らせよう。

(17)

イエスよ、ようこそ来られた、我ら二人が臨席しているこの場所まで！

いままで何回となくお前を懸命に探し回った。

お前のお弟子さんに三十ペンスも支払った――

牛や馬と同じように、お前を金で買ったのだ。

(18)

我らの目の前に立っているということは、今はもうお前の体は我らのものだ。

言え、なぜ我らに厄介をかけ、我らの掟をくつがえしたのか。

お前は我らと議論し、しばしば打ち負かしたし、それ以上のこともしてくれた。

それゆえ、お前を殺害する必要性は十分にある。

(19)

カヤパ お前に付いて回る弟子たちはどんな人間なのだ？

お前が教えている教義とはなんなのだ？

さあ、わしに幾らかでも語って聞かせ、我らの疑いを晴らしてくれ。

そうしてくれたら、お前の教えを他の者たちに説教してやれるのだ。

(20)

イエス これまでいつでも大っぴらにわたしは説教をしてきました、

ユダヤ人のすべてが集まる教会堂でも寺院においても。

わたしが何を言い、また、何をしたのか、その人たちに聞いてみなさい。

わたしが言ったとおりにあなたに告げられるはずだから、一人一人に尋ねてみなさい。

(21)

ユダヤ人一 やい、お前は誰に向かって話をしているのか？

百六十八

司教様に向かつてても同じ話をするつもりか？

誓って言う、ほったに一発食らわせてやる！

ほら、おまけに、もう一発だ！

「(22)でも、イエスの頬を叩く。」

(22)

イエス わたしが間違ったことを言ったのなら、

あなたにはそのとおりだとはつきり言いましょう。

だが、この件に関してわたしが言ったことで、もう充分だとなると、

わたしをひどく誤解していることになります。

(23)

アンナス 皆の者、この男の言うことには注意するように、  
我らの掟をないがしろになどしていないという口ぶりに、  
できるだけこの男に不利な証言をするように、  
そうすれば、奴を殺すことができる。

(24)

学者一 猊下、奴の口からこのようなことを聞きました。

「直ぐに、この寺院を破壊しろ、

そうしたら、もう一度、建て直してやる、

三日の内に、そっくりそのまま元あったように。」

(25)

学者二 そのとおりです、猊下、わたしもこのように奴が言ったのを聞いております、

「わたしは神の御子である」と。

今もってなお、多くのバカどもがそのように信じております。

これは奴の言葉どおりであると、わたしの地位をかけて敢えて申し上げます。

(26)

学者三 はい、そのとおりです、わたしも奴が多くのことを説教するのを聞きました。

そのどれを取っても、我らの掟に反しております。

それを数え上げるようになりますと話が長くなりましょう、この機会に全部をお話するには。

(27)

カヤパ さあ、イエス、なんと言うつもりか、なぜ答えぬ？

お前にとって不利な発言だったが、聞こえなかったのか？

左百六十八

しゃべろ、こやつめ、しゃべろ、このバカものめ！

わしを軽蔑しているから、しゃべるのをこばむのか？

145

それこそたくさんの罪で告発されているのが聞こえなかったか？

さあ、今ここに、裁判長として、また、悪霊に向かってするように太陽と月にかけて、

お前に命じる――

お前が神の子なのかどうかを言え！

(28)

イエス わたしは神の御子だ、あなたに向かって否定はしない。

あなたたちは皆、わたしの姿を世の終わりの日に見る。

150

その時、御子は偉大な力と威容のうちに来る。

そして、言っておく、生きている者と死んでいる者を裁く。



(29)

カヤパ ああ、やめろ、やめろ、なんたることだ！

こやつが神を冒瀆したのをお前たちは聞いたな？

証拠として更に必要なのは、

この場で我らが聞く奴自身の口から出たすべての言葉だ。

皆のもの、これで奴が死に価すると考えるだろう？〔コレニ応エテ皆ガアレコレ騒ギ立テル。〕

ユダヤ人 そのとおりだ、奴が死に値すると皆、言おう、そのとおりだ、そのとおりだ。アンナス あなたの所へ連れてゆき、いくらか打ちのめしてあげなさい、

こんな時に神を冒瀆したんですから。

〔ここで、皆はイエスの頭と体を叩き、顔につばきを吐きかけ、引き倒し、足置き台に座らせ、顔に布をかぶせる。〕

(30)

ユダヤ人一 ああ、みんな、何かするんだったら、この男には氣をつけたほうがいい、

奴には預言ができるんだから。

ユダヤ人二 こんなふうになぐると、預言されるぞ、

お前イエスを誰々がぶん殴った、とな。〔頭ヲ殴ル。〕

ユダヤ人三 いいか、用心しろ、さあ、用心しなよ、今度は俺がやるから！ 百六十九（165）  
 奴がどんなふうに預言するかごろうじろ——  
 今、ぶん殴ったのは誰だ？

ユダヤ人四 じゃあ、ここで、俺が新しい遊びを始めよう、  
 ここにいる連中だけで遊べるやつを。

「ぐるぐる回りのぶっ叩き」、「ぐるぐる回りのぶっ叩き」と行こう！  
 その気があるなら家までおいで！  
 さあ、今、ぶっ叩いたのは誰だ？「ここで、端女が登場。」

# 「ペテロの否認」

## （1）

端女一 あんたたち、よってたかってこの人に何をしてるんだよ？  
 この人の弟子の一人があんたを癒してくれたの、覚えてないの？

「ここで、もう一人の端女がペテロに向かって言う。」

端女二 ああ、あんたは見たところいい人だ——

あんた、あの人の弟子の一人だろ、そうだ、そうに違いない。

ペテロ ああ、女よ、この男の前で、そうではないと言おう、

この世が始まって以来、一度たりともだ。「スルト、鶏ガ鳴ク。」

端女一 いくらそうでないと否定しても、あんたはあの人の弟子の一人だ、

あんたの顔を見れば、わたしたちには見分けがつくんだ。

ペテロ 女よ、あなたはわたしを誰かと間違えている――

あの男をわたしは知らない、あなたたちに向かってはつきり言っておく。

ユダヤ人一 ああ、友達になったあんたと、また会えたな、

俺のいとこたちがあんたの目の前であの人を殴ったんだから。

あんたの師匠が庭園で捕まった時、

あんたたちはみんなであの人を見捨ててしまった。

そして今度はあんただ。あんたは見捨てはしないよな？

なぜって、あんたはガリラヤ出だからよ、そう俺は請合うが、どうだ？

(2)

ペテロ 旦那さん、わたしを造った方にかけて言うが、わたしはあの人など知らない。

わたしの言葉を信じるつもりがあるなら、誓って言う、

ここにいる人たちが証人だ、

わたしが知らぬということは本当のことだ。「スルト、鶏ガ鳴ク。」

左百六十九

190

185

180

「ここで、イエスはペテロを見る。すると、ペテロは涙を流し、次のように言つて、退場する。」

## (3)

ああ、ああ、偽りの心臓よ、なぜ裂けてしまわないのだ、

お前があんなにも惨めな師匠を見捨ててしまったというのに！

ああ、この地上のどこに安らぎがあるのだ

師匠がわたしを憐れに思つて慈しみを賜つてくれるまでに？

## (4)

わたしは師匠であり主であるイエスを見捨てた。

前に言われたように、三回も続けて、知らないと言つてしまった！

それゆえ、いくら悔いて充分に悔いたとは言いきれぬ。

わたしは罪人だ、この罪をとがめられている。

## (5)

鶏が鳴くのを聞いた時、主はわたしの方に目を向けられた！

まるで、わたしが前に発した言葉をどう考えるのか、と問われているように。

ああ、なぜあの時、あの方を見捨ててしまったのだ！

これからはそもそも、そのような時があつた事実を決して忘れないようにしなければ

ならない。

〔ここで、第二十九番演目が終わり、第三十番演目「ユダの死」へと続く。〕